

常任指揮者：ティエリー・フィッシャー

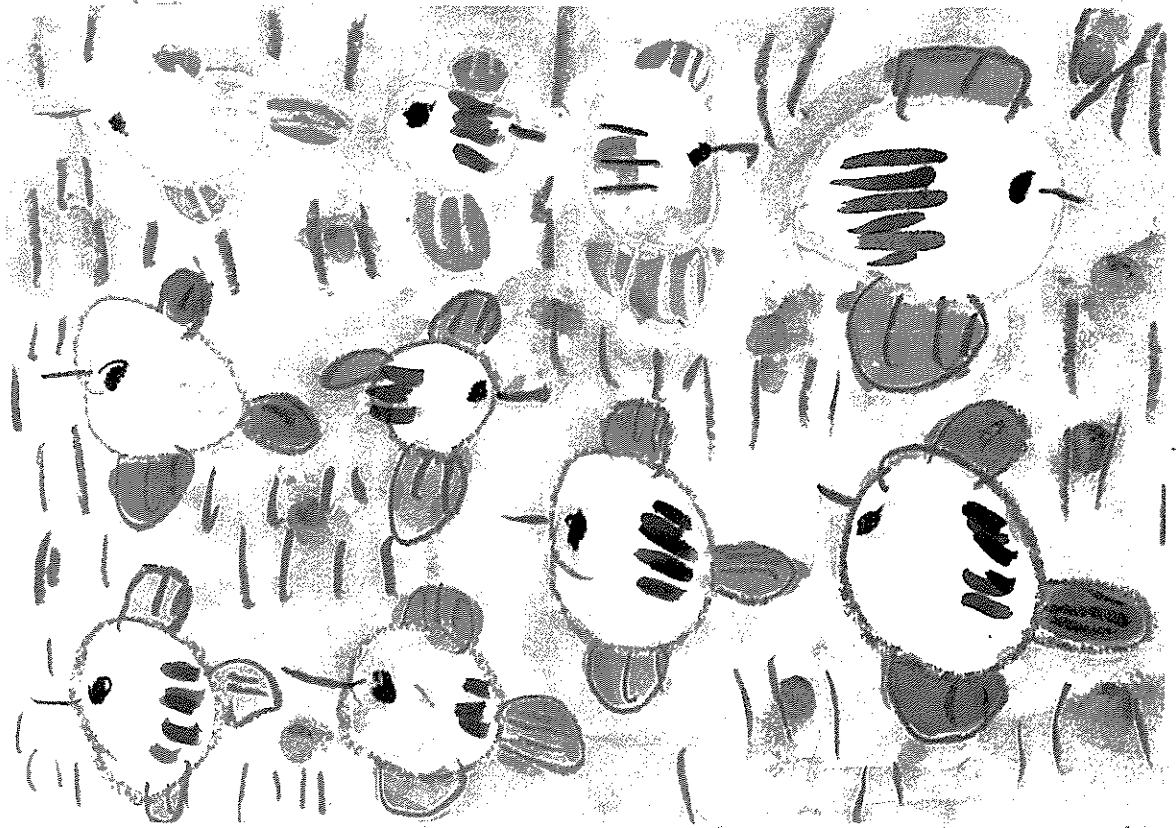
 **名フィル**  
Nagoya Philharmonic Orchestra since 1966




名古屋フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会

「夢いっぱいの特等席」

**福祉コンサート 名古屋公演**



主催  名古屋フィルハーモニー交響楽団

特別協賛  豊田自動織機

助成  日本財団  
The Nippon Foundation

後援 愛知県 愛知県教育委員会  
名古屋市 名古屋市教育委員会

協力 トヨタボランティアセンター  
一般公募によるボランティアの方々

2009年  
**9月29日(火)**

11:00/14:00 開演

名古屋国際会議場

センチュリーホール

## プログラム

### ● グリンカ：歌劇『ルスランとリュドミラ』序曲

#### 【楽器紹介コーナー】

弦楽器 → 木管楽器 → 金管楽器 → 打楽器

### ● ヴォーン・ウィリアムズ：グリーンズリーヴスによる幻想曲

### ● ヨハン・シュトラウスⅡ世：トリッチ・トラッチ・ポルカ 作品214

### ● オッフェンバック：歌劇『ホフマン物語』より「ホフマンの舟歌」

#### 【みんなで歌おうコーナー】

久石譲 [岩本渡編]：映画『となりのトトロ』より「さんぽ」

### ● スメタナ：連作交響詩『わが祖国』より「ヴルタヴァ（モルダウ）」

## 曲目解説

### ● グリンカ：歌劇『ルスランとリュドミラ』序曲

ロシアの作曲家ミハイル・グリンカ（1804～1857）は、自分の生まれ育ったロシアの音楽を非常に愛していました。1842年に作曲したオペラ『ルスランとリュドミラ』は、グリンカの大好きなプーシキンの詩をもとに作られ、愛するロシア民謡がふんだんに使われています。歌劇は中世のロシアを舞台に、悪魔に連れ去られた大公（国王の弟）の娘リュドミラを、騎士のルスランが救い出し、2人が結ばれる物語です。この歌劇の幕開けに演奏される「序曲」では、生き生きと軽やかに流れるメロディのスピード感が特徴的です。

### ● 楽器紹介コーナー

弦楽器 → 木管楽器 → 金管楽器 → 打楽器

### ● ヴォーン・ウィリアムズ：グリーンズリーヴスによる幻想曲

レイフ・ヴォーン・ウィリアムズ（1872～1958）は、イギリスの作曲家です。イギリス全土を回り、各地の民謡を収集・研究したことにより、のどかで牧歌的な雰囲気作風を確立しました。交響曲から映画音楽まで幅広いジャンルの音楽を作曲し、その楽曲は世界中で親しまれています。

「グリーンズリーヴスによる幻想曲」では、日本でもおなじみ、イギリスで古くから伝わる「グリーンズリーヴス」のメロディが、弦楽器とフルート、そしてハーブという編成で幻想的に演奏されます。

●ヨハン・シュトラウスⅡ世：トリッチ・トラッチ・ポルカ 作品214

ヨハン・シュトラウスⅡ世（1825～1899）は「ワルツ」や「ポルカ」といった舞曲で、当時のウィーンで一世を風靡した作曲家・指揮者・ヴァイオリニストです。生涯に500曲ほどの楽曲を作曲し、「ワルツ王」の名でも親しまれています。ちなみに父親のヨハンも作曲家、そして弟のヨゼフとエドゥアルトも作曲家として活躍しており、シュトラウス家は音楽一家でした。「トリッチ・トラッチ」とは“おしゃべり”を意味すると言われており、その名の通り愉快で楽しい音楽です。日本では運動会の定番メロディとしてもよく知られています。

●オッフェンバック：歌劇『ホフマン物語』より「ホフマンの舟歌」

ドイツで生まれ、フランスで活躍したジャック・オッフェンバック（1819～1880）は、作曲家・チェリスト・指揮者として活躍し、やがて自ら劇場を結成。そこで上演された喜歌劇（オペレッタ）『天国と地獄』は、代表作のひとつとして親しまれています。晩年の代表作である『ホフマン物語』は彼が唯一残した歌劇（オペラ）作品。主人公の詩人ホフマンが次々と恋に落ちては破れるという内容で、未完のままオッフェンバックは亡くなってしまいました。第4幕、ジュリエッタとの恋の場面で歌われる「舟歌」は世界中で愛奏され続けています。

●久石譲【岩本渡編】：映画『となりのトトロ』より「さんぽ」

久石譲さんは、『もののけ姫』、『千と千尋の神隠し』、『崖の上のポニョ』や、最近ではアカデミー賞外国語映画賞を受賞した『おくりびと』など、有名な映画音楽を数多く手がけている人気作曲家で、様々な音楽活動を行なっています。今日演奏される「さんぽ」は、宮崎駿監督の映画『となりのトトロ』のオープニング・テーマです。今日は豪華オーケストラの伴奏で、一緒に歌いましょう！

●スメタナ：連作交響詩『わが祖国』より「ヴルタヴァ（モルダウ）」

ベドルジハ・スメタナ（1824～1884）は、チェコを代表する作曲家です。当時、チェコはオーストリアの一部となっていたため、チェコの人々は自分たちの国を取り戻したいと考えていました。スメタナはそんな人々の気持ちを高める音楽をたくさん書き、“チェコ国民音楽の父”と呼ばれています。そのスメタナの代表作が、6曲からなる連作交響詩『わが祖国』です。「ヴルタヴァ（モルダウ）」はその2曲目で、チェコの大地を流れるモルダウ川の様々な表情を音楽で表わし、故郷への愛を込めています。

曲は、フルートとクラリネットによって表現される2つの小さな流れが、やがて合流して1本の大きな川となり、有名な旋律がヴァイオリンとオーボエによって奏されます。川の流れは狩りの角笛や田舎の婚礼の踊り、妖精たちの踊りを眺めながら、急流にさしかかります。やがて流れが緩やかになったモルダウ川は、古いお城を横に見つつ、プラハへと流れ込むのです。

# さんぽ

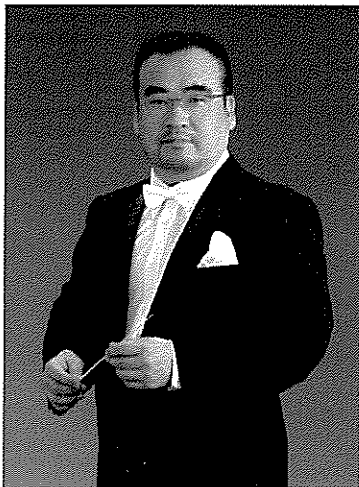
映画『となりのトトロ』より

作詞／中川李枝子

作曲／久石 譲

1. 歩こう 歩こう 私は 元気  
 歩くの 大好き どんどん 行こう  
さかみち  
 坂道 トンネル 草っばら  
いっぽんばし  
 一本橋に でこぼこ じゃりみち  
 くものす くぐって 下りみち
  
2. 歩こう 歩こう 私は 元気  
 歩くの 大好き どんどん 行こう  
 みつばち ぶんぶん 花畑  
 日なたに とかげ へびは ひるね 昼寝  
 ばったが 飛んで 曲がり道
  
3. 歩こう 歩こう 私は 元気  
 歩くの 大好き どんどん 行こう  
 きつねも たぬきも 出ておいで  
たんけん  
 探検しよう 林の おくまで  
 友だち たくさん うれしいな  
 友だち たくさん うれしいな

## 指揮：吉田 行地 プロフィール



早稲田大学を経て、1991年洗足学園大学付属指揮研究所入所。マスタークラス研究生として同大学のオペラ公演、新曲発表会で研鑽を積む。1996年同研究所修了。指揮を秋山和慶、河内良智、尾崎晋也、湯浅勇治の各氏に師事。

1995、96年ルーマニア指揮アカデミーに参加。ルーマニア国立トゥルグ・ムレシュ響を指揮し、好評を博す。同年、イタリアのキジアーナ音楽院夏期講習会に参加。1997年3月ルーマニア国立サトゥ・マーレフィルハーモニー管定期演奏会に客演。新聞批評において絶賛される。1998年3月秋山和慶指揮／東京響定期演奏会、ベルリオーズ「レクイエム」、また2000年3月同定期演奏会、ラッペンマン『マッチ売りの少女』〈日本初演〉の両公演において、副指揮者として出演。

これまで、札幌響、東京響、大阪フィル、広島響、九州響、大阪市音楽団などに客演。また、クラシック以外の分野でも、劇団四季のミュージカル『美女と野獣』ロングラン公演の指揮や、2004、05年横原敬之オーケストラ・コンサート「eLEBRATION」の指揮者等、多彩な音楽活動を行なっている。

2004年4月中部フィルの指揮者に就任。洗足学園音楽大学、桐朋学園大学非常勤講師。

## 名古屋フィルハーモニー交響楽団 プロフィール



1966年7月10日に結成。1973年4月、名古屋市の出捐により財団法人となる。2008年4月より、ティエリー・フィッシャーが第7代常任指揮者に就任。

歴代の指揮者は、岩城宏之、福村芳一、森正、荒谷俊治、外山雄三、モーシェ・アツモン、飯守泰次郎、小林研一郎、沼尻竜典。また1995年には、ポップスオーケストラ・ミュージックディレクターにボブ佐久間が就任し、〈名フィル・ポップスオーケストラ〉としてユニークな活動を展開している。

1988年に初の海外公演としてヨーロッパ2カ国ツアー（広上淳一指揮）を、2000年にアジア8カ国ツアー（本名徹次指揮）、2004年に「ブラハの春」国際音楽祭からの正式招待を受けたヨーロッパ3カ国ツアー（沼尻竜典、武藤英明、トマーシュ・ハヌス指揮）、2006年にアジア7カ国ツアー（下野竜也指揮）を実施、大成功を収める。

これまでに、東海テレビ文化賞（1990年）、愛知県芸術文化選奨文化賞（1991年）、文化庁芸術作品賞・レコード部門（1997年）を受賞。

現在は、愛知県芸術劇場コンサートホール、中京大学文化市民会館オーロラホールを主会場に、年間約120回の演奏会を行なっている。

〒460-0022

名古屋市中区金山1-4-10名古屋音楽プラザ4F

名フィル・チケットガイド Tel. 052-339-5666

Tel. 052-322-2774 Fax. 052-322-3066

<http://www.nagoya-phil.or.jp/>

## 募金について

7月19日（日）に開催されました「夢いっぱいの特等席」チャリティコンサート>におきまして、会場での募金活動が行なわれました。

ご来場いただいた皆さまから、合計¥130,128の募金をいただきました。誠にありがとうございました。いただいた募金は、本日開催の「夢いっぱいの特等席」福祉コンサート 名古屋公演>の運営に使用しております。



(2009年7月19日<「夢いっぱいの特等席」チャリティコンサート>より)

## 表紙絵について

サンフレンド 高柳泰次さんの作品

この表紙絵は、小牧市にあります知的障害者援護施設サンフレンドに入所されている方が描かれました。題名は「さかな」で、色鮮やかな魚たちが元気よく水の中を泳ぎ回っている姿を、水彩絵の具とクレパスを使って表現しました。サンフレンドでは、「“この子、わが子なりせば”の親の愛を忘れることなかれ」を大切に、能力に応じた生きがいのある生活と、自己表現の達成によって、一人ひとりの豊かな地域生活支援を目指しています。